

骨髄検査所見により診断が確定したMyeloid sarcoma with *CBFB-MYH11* の一例

◎加賀 淑子¹⁾、伊藤 智咲¹⁾、梅木 彩¹⁾、浅野 裕子¹⁾、大場 祐輔¹⁾、齊藤 梨絵¹⁾、桜田 明美¹⁾
 東北医科薬科大学病院¹⁾

【背景】Myeloid sarcoma(以下、MS)は、骨髄以外の部位に発生する骨髄芽球由来の腫瘍と定義される。MSは多発することは稀であり、inv(16)を認めたMSの多くは腹部領域に発症している。骨髄検査所見により診断が確定したMyeloid sarcoma with *CBFB-MYH11* を経験したので報告する。

【症例】80歳代女性。既往歴：慢性腎臓病、左股関節人工関節置換術後。現病歴：X-10日より右乳房腫瘍自覚。全身検査の為に施行されたCT・MRIにて骨盤壁に軟部構造が連続している他、右乳房腫瘍を認め、乳癌および子宮癌が疑われた。入院時より汎血球減少を認めており、骨髄癌腫症疑いにて骨髄検査施行。

【所見】LD 393 U/L,CEA 2.8 ng/mL,CA125 3.9 U/mL,CA15-3 8.7 U/mL,SCC 2.0 ng/mL,WBC $1.6 \times 10^9/L$,RBC $3.13 \times 10^{12}/L$,Hb 8.9g/dL,Ht 27.9%,PLT $146 \times 10^9/L$ 。骨髄：NCC $41.6 \times 10^3/\mu L$,Mega 0/ μL (blast21.8%,Promono10.0%)。遺伝子検査：*CBFB-MYH11*mRNA 1.2×10^4 コピー/ μg RNA。*CBFB* FISH 融合シグナルを100細胞中、57.0%認めた。染色体検

査(G-band法)：

48,XX,+8,inv(16)(p13.1q22),+22[13]/50,idem,+X,add(5)(q11.2),+13,+14,add(17)(q11.2),-22[5]/46,XX[1]。以上より、AML with inv(16)(p13.1q22); *CBFB-MYH11* と診断された。一方、乳腺組織の病理所見は濃染性の核を有した細胞が密に浸潤増殖しており、サイトケラチン-,HER2-,CD45+,CD34+,c-kit+,CD3-,CD20-,Ki-67+。子宮頸部の病理所見は上皮下間質に浸潤する異型細胞の浸潤あり、LCA+, CD34+,c-kit+,CD3-,CD20-。以上より、両病変はいずれもMyeloid sarcoma with *CBFB-MYH11* と診断された。

【まとめ】MSは診断が難しい症例が多い。本症例は骨髄検査所見からMSが疑われ各組織の免疫染色が追加されたことにより、診断が確定した。連絡先 022-236-5911(内線 5891)